



～礼儀と節度を考える～

# 平成武師道

## 〈人間活動学〉

2010年、平成22年も終わりの月となった。

やはり1年が経つのは早い。

極力、時間の無駄遣いをしないように気をつけてはいるのだが、時間の大切さを改めて感じるのが師走の月である。

さて、師走になり1年を振り返ってみようと思うのだが、これほど日本がパッとしなかった年はなかったのではないだろうか。何か日本全体が手枷足枷を付けられたかのように、身動きができなくなっている感じを受ける次第だ。

このままではいけない。

平和は良いが、平和ボケではいけない。

政治も何かをやるようとしているのは分かるが、空回り状態、それどころか時間の無駄遣い。

何も答えは出ない。

経済もパッとしない、と言うよりもどんどん落ち込むばかり。

どうすれば、このがんじがらめの状態から日本が抜け出せるだろうか？

そんな事を考えさせられる年だった。

特に日本を代表する伝統や文化が地に堕ちた。

相撲や歌舞伎にしても代表する者達の愚行により、スキャンダルのなところばかりがワイドショーで取り上げられ、国内だけではなく国外にも恥を晒す形となった。

海外から観て日本をイメージするなら、間違いなく五本の指に入りそうな伝統文化がこの様（ざま）である。多くの日本国民は、これらの「恥」をどう受け留めているのだろうか？

政治も駄目、経済も駄目。

そして、伝統も文化も駄目では何が日本に残っているのか。

2010年は本当に、日本の駄目尽くし、愚かさが露呈されてしまった年になった。このままだと、2011年以降も同じ轍を踏む事になるだろう。

これは単なる当事者の事だけでは済まされない。

やはり我々国民全体にも言える事なのだ。

一人一人が、もう一度考えなければならぬ問題である。

政治、経済、伝統、文化、そして日本とは何か。

それぞれを考え、行き着くところは自分自身の考え、思想、哲学を見つけるべき点ではないだろうか。

誰がどうのこうのと言う前に、まずは自分自身を知ろうではないか。

そして、それが行動になり形になるはずだ。

日本を思う一人一人の気持ちが和となり、いろいろな意味で強い国になるだろう。

「恥」から「誇り」へ変わる為にも、失敗、過ち、愚行に気づき、次の階段を上ろうではないか。

今までに築き上げられた素晴らしいものを、この平成で失ってはいけない。

また、それらを次の世代にバトンタッチをする為にも平成を生き抜く我々が怠けてはいけないのだ。

目前にある困難、苦難を乗り越えて強く生きていく姿を示して行こうではないか。

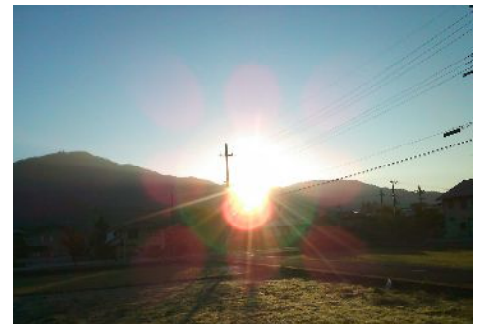
2010年、様々な事を教えてくれて、ありがとう！

多くの困難、苦難を与えてくれて、ありがとう！

さあこれからは、次の年に向かって、少しでも「誇り」ある自分、そして日本ができるように動いていこう。

これぞまさしく「闘志天翔」

押忍！



佐々木